

【今回の研修で学んだこと】

○財政の仕組みを家庭に置き換えて説明されてるところが、分かり易く良かった（吉田憲市）

○コロナの問題もありこれからの時代に非常に大切なことは理解をしました。（久保谷実）

○アフターコロナの社会では、確実に今までの常識が大きく変化してまいります。改めて財政の健全化と事業の見直しを図る必要があると思いました。財政の見える化を進めると同時に本当に必要なことを取捨選択しながら、官民一体となって改革していくことが重要であると再確認いたしました。（紙井和美）

○タ張市のようにならないこと。（柴原成一）

○自治体財政の基礎、仕組み、一般財源（地方税、地方交付税等）についても学ぶ。経常収支比率の大きさ、財政の課題、健全化、持続可能性についてどのようにしていくのが望ましいのか。財政健全化計画を議会はチェックし監視して行くことが必須であることを学びました。財政が悪いことが住民の福祉の悪いことに繋がらない。（難波千香子）

○令和3年度の見通しとして、国は経済成長率+4%と見込んでいるが、コロナ禍の状況を考えると財政状況は悪化すると思われる。国の財政が悪くなると地方自治体への締めつけも厳しくなるため、地方自治体としては今まで以上によく考えて財政運営をしていかなければならないということを学んだ。

（久保谷充）

○地方財政の森先生の講義は、何度か受講いたしました。特に今までと比べて初心者向けに難しい財政の仕組みを非常にわかりやすく講義をしていただき大変良かったと思います。自分自身としては、様々な機会に財政の講義を受けてきましたが、ポイントを押さえた講義で再度地方財政の歳入・歳出の基礎を復習できたことは大変良い機会であったと感じています。（川畑秀慈）

○新型コロナウイルス感染症の対策が急務だと思いました。（滅コロナ）地域より人と共に注意を喚起して伝染しないように。（平岡博）

○一言で言えば、国の財政状況を注視しながら、自治体への影響を読むこと。自治体は、事務事業の精選、施策の選択で、住民にとって真に必要な施策を実施して行く必要があることだと思いました。（海野隆）

○予算書（決算書も）はなかなかとつきづらいものですが、今回学んだことをきっかけに内容をよく勉強したいと思います。（永井義一）

○財源についての理解が進んだ。一般財源の大事な事が理解を持ち、使い道を考えていかないと国庫支出金の扱いが難しいことが理解でき、地方債の扱い方にも理解できた。これによって予算書と決算書の見方の注意点すべき点が分かった。（野口雅弘）

○地方自治の最終目標が「福祉の増進」であるなら施策の財源は本来、自治体で賄うべきであるが、現実には地方税は4割に過ぎず残りを地方交付税等の国税収で補っている。国の赤字予算を見ても長続きはしない。不必要な箱物行政を見直し重点施策を明確にし、自主財源を持つべきと考えます。（飯野良治）

○今回の研修で学んだことは、議員は地域の暮らしや発展のための方向性を見定め、そのために必要かつ適切な自治体政策を立案し、絶えず財政状況をチェックし取り組みをすることが大切であることを学びました。多くの財政指標は地方自治体の財政状況を的確にしかも簡単に分析出来る反面、状況が隠れてしまうことも分かりました。自治体の真の財政状況を見定める不断の行動が大切であり肝心なことも学びました。(栗原宜行)

○財政の知識や、そのコロナ禍での特性が把握できた。(樋口達哉)

○財政というどうしても自分の自治体だけをみてしまうが、国・県の動向も気にして予測していかないといけないことを学んだ。(高野好央)

○財政の考え方。(石引大介)

○今回の研修で、これまでの日本の経済、コロナ禍における経済の在り方をどのようにしていくのが正しいかを論してくださいました。また、財源の説明を丁寧にわかりやすく教えて頂きました。余談の話の中で、水道料金の引き下げのデメリットとしては、いずれ来るメンテナンス費(管路布設)に影響が出る恐れがあるなどと、様々なことに経済が関わっているのだなと改めて感じました。(栗田敏昌)